

Title	市村今朝蔵著 再組織された英国の経済
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1939
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.33, No.6 (1939. 6) ,p.853(161)- 856(164)
JaLC DOI	10.14991/001.19390601-0161
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19390601-0161

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

版畫家として知られ、幾多傑作を遺したが、其の内火事に取材したものが二つあると云はれる。其の一つは日本畫の手法で描かれた此の繪で、他の一は純洋畫風に扱つた別掲「久松町にて見る出火の圖」である」と記してゐることである。清親の描いた火事の圖は、尙ほ是れ等のものゝ外にも、濱町から寫した兩國大火の圖、兩國燒跡の圖などがある。加之、清親の歿したは大正四年十一月二十八日であり、最晩年に至るまで畫業を廢さなかつたのであるから、彼れを「明治初年の版畫家」と呼ぶは當らない。

尙ほ本書の記述を昭和三年版土方成美博士著『日本經濟研究』上卷の其れと比較對照する時は、前者が東京火災保險會社の創立を明治二十年七月、開業を翌二十一年十月と記してゐるに對し、(即ち二十年七月二十三日、東京府知事男爵高崎五六より創立の認可を受け、二十一年十月一日より業務開始)、後者が『明治商工史』に據つて、其の成立を二十一年、開業を二十二年六月に做せるの相違が發見せられる。又、土方博士の著書は、同會社が松田東京府知事の姻戚たる「老鵜殿長氏等の首唱によつて」成立せる旨を記してゐるが、之れは無論「鵜殿長」と改めなければならぬ。「老」の一字は、恐らく、舊鳥取藩の家老にして、松田氏の未亡人波鶴の實兄に當る鵜殿長氏のことを他書が「舊鳥取藩老鵜殿長」と記したるものを誤寫せるに基くものであらう。(同書五四九頁參照)。

(東京火災保險株式會社發行、非賣品)。

市村今朝藏著『再組織された英國の經濟』

高橋誠一郎

本書は東京政治經濟研究所員市村今朝藏氏の新著であつて、再び經濟的に世界の王者たらんとして、又、昔日の繁榮を取戻さんとして、其の産業に一大編成替を試みんとしつゝある英國經濟社會の現状を究明し、同國の「現實より隣時も眼を離し得ない」我が國人をして、其の産業の動向を理解するに資せしめんことを企圖せるものである。著者は主たる資料をルカス(Arthur F. Lucas)氏の一千九百三十七年の著 Industrial Reconstruction and the Control of Competition. に仰ぎ、併せてピットマン、リヴィ、ラッドフォード、ロビンズ、グラント、バーローズ、マッケンヅィ、ローリー、ロビンソン、リップマン等の諸氏の著並びに『エコノミスト』誌を參照せる旨が記されてゐる。

著者は先づ英國經濟の過去より筆を進めて、英國統制經濟の發展及び英國統制經濟と政治に就いて論じ、次いで、價格統制、生産統制、統制と能率、統制に對する保障、對外經濟統制、統制と效用等英國産業統制の基本的諸問題を取扱ひ、第三に、法令による石炭統制、組織による鐵鋼統制、分擔令制度による造船業及び製粉業統制、企業集中による紡績統制、結合による化學工業統制、組合による諸産業統制、行政による農業統制等英國産業統制の實勢

に就いて述べる。

今日に於いては、自由主義の郷土と認められてゐる英國すら、國民經濟の不合理性、無計畫性及び無政府性を排して、之れに對して種々なる點に於いて干涉、制限及び拘束を行はんとするの時代に這入つてゐる。著者の光彩ある文字を引用すれば、「大戰の後に世界の平和秩序の支柱だと思はれてゐた政治上のデモクラシーは後退した。繁榮の條件であると思はれてゐた自由主義經濟は混亂の淵源と墮した。其處に暗黒の中に光明を求むる絶望的努力が繰返された。指導の指針が探究された。無秩序の中に迷ひ出し大精神は何者かの指令を遵奉しようとする待ちこがれることになつた」のである。(三二二頁)。而も、英國はソ聯の計畫經濟、獨伊の統制經濟とは異つた道を進んで統制經濟に向つて進みつゝあるのである。英國は「集團的手段を用ひて、貧窮と無秩序とから離脱しようとする苦惱してゐる。漸次の集團主義により一步一步統制化して行かうとするものである。それは「統制の爲めにあらゆる物を拋棄し、人民に對する政府の責任をも蹴飛ばすほど急進的ではない」。「其處には獨裁も、闘争もなしの様式が望まれてゐる」。(三二四頁)。

各國各自の必要と環境に應じ、夫々独自の統制經濟が産み出されてゐる。吾人は著者と共に、經濟的に政治的に幾多の特殊性を有する我が國は須らく我が國独自の姿態を整へざるを得ざるものであり、それは「獨伊の追従」であつてはならず、又、「英國の模倣」であつてはならぬことは勿論であるが、而も、吾人は獨伊の統制經濟に學ぶ可きもの甚だ多きを認むると共に、再組織せられたる英國經濟の現實によつて示唆せらる可きものも亦、極めて多きことを認めなければならぬ。洵に吾人は本書の著者と共に、「我れ我れは現在、各國で經驗して居る事實を正確に研究しなければならぬ。事實に盲目であつてはならない。各國のプランニングの行方を見守らなければならぬ。再び産

業界の王座をめざす英國の其の方向こそ興味のある」と叫ばなければならぬ。(序文及び四頁参照)。

由來、英國は久しく重商主義的政策を採り、中央の主權によつて行はるゝ獎勵若しくは制限によつて國富の増加を計り、國力の發展を行はんと期した。(本書の著者は、英國に在つては三世紀前に於いて重商主義的傾向が下火と爲つたものと解して居られるやうであるが——七頁参照——私は寧ろ第十七世紀前半を以つて、重商主義的傾向が英國に於いて最も顯著であつた時代と觀てゐる。而も、私自身、長く「重商主義」なる語義の曖昧なるに困惑しつゝあるのである。市村氏が「重商主義」なる語を如何なる意義に解釋して居られるかを知るに非ざれば、固より這般の觀察の當否を輕々に論ずることを得ない)。然しながら、國家的權威を以つてする産業の指導管理が愈々有效に行はるゝに及んで、各企業的能力は益々發達し、而して各企業的能力が益々發達するに従つて、是れ等のものが愈々全般の拘束より解除せられんことを要求するに至るは自然の數である。殊に、英國に於いて他に先んじて開始された産業革命の進展と共に、同國工業が既に優秀なる機械の供給を多分に受け、其の商人がナポレオン戰役の終末と共に販路の必要を痛感し、而して之れに伴つて農業保護の結果たる穀物の高價が労働費用を増加するものと思惟せられて居つた時代に於いて經濟的自由主義は高調せられたのである。著者市村氏はアダム・スミスを以つて、「レッセ・フェールの驍將」と看做して居られる。或ひは斯くの如く觀ることが、獨り市村氏のみならず、一般の通説であるかも知れぬが、而も「レッセ・フェール」なる熟語は嘗だにアダム・スミスのみならず、其の系統を傳へたマルサス及びリカードの著作中には看出さるゝことなく、又斯くの如き觀念すら是れ等の大經濟學者の何れに於いても獨斷的形態に於いて主張せらるゝことがなかつた。「レッセ・フェール」を以つて正統派經濟學の實際的結論として「一般人士の心胸に植え附けたものは寧ろマンチェスター學派であつた。「自由放任」は決して此の國永遠の主義方針では

なくして、單に一時的便宜的政策に過ぎなかつた。國際的軋轢の激化と共に、重商主義の第十九世紀に於ける後裔とも觀る可き保護政策は其の頭を擡げた。殊に世界大戰後に於ける産業の不振が自由放任主義への復歸を困難ならしめ、統制高度化の傾向を顯著ならしめたことは當然と言はなければならぬ。而して市村氏の近業は實に這箇産業統制の實勢を吾人の眼前に鮮かならしむる好著である。吾人は英國統制經濟の真相を知らんとする人々に本書を薦めるに躊躇しない。(菊判三二六頁、改造社版、定價金二圓八十錢)。